資料６

一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会

コンビニエンスストアにおける取組状況と課題

2023年7月19日

株式会社セブン-イレブン・ジャパン
建築設備本部エネルギー部
総括マネジャー　斯波　康弘

セブンイレブンにおける急速充電器設置

急速充電器設置スキーム

EV急速充電器設置業者様

設置・運営・維持	役割	場所提供・駐車場清掃

※　役割分担はATMとほぼ同じ

- 設置期間：8年
- 利用頻度：60回/月・店

設置店舗数と設置条件

	2023年度		設置ﾎﾟﾃﾝｼｬﾙ
	現在	年度末目標	
セブンイレブンへの設置店舗数	81店	181店（＋100店）	約9,000店（42%）

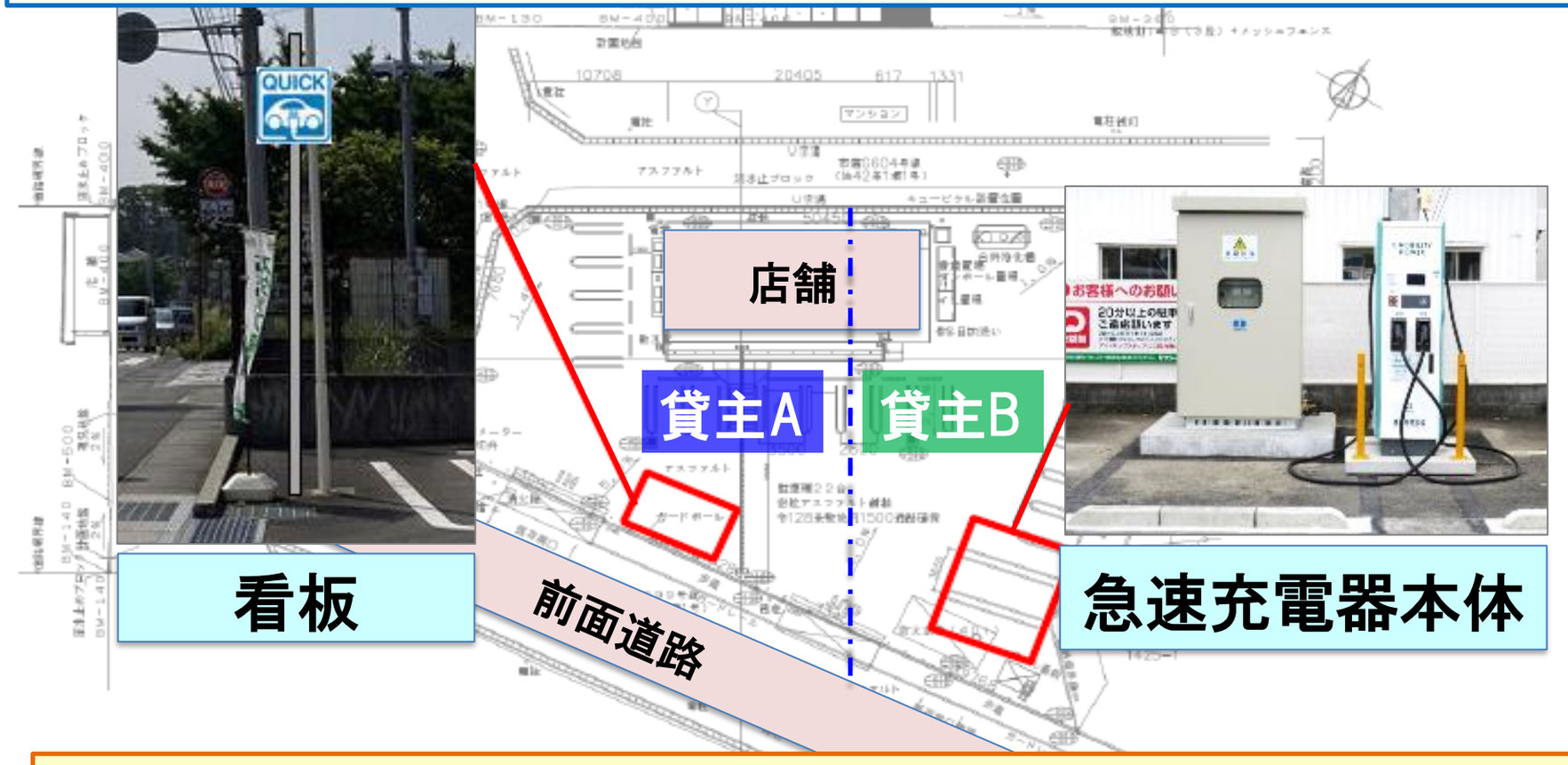
設置可の店舗条件

- 駐車台数15台以上
- 閉店予定なし

セブンイレブンにおける設置までのプロセス

手順：①現地調査 ⇒ ②設置位置決定 ⇒ ③貸主承諾 ⇒ ④充電器設置契約

看板



急速充電器本体

利害関係者

- 加盟店オーナー様
（関心：客数増減）
- 貸主様
（関心：賃料、期間）
- SEJ本部

複数貸主の場合が多く、合意形成に多くの時間を要しながら進めている

普及促進のために…お客様視点で考える

「使い易い」状態

- 約5分の充電で次の充電スポットまで行ける航続距離＋α

  ⇒　これが実現できる充電器、車両のベストマッチが必要（出力、容量、電費等）

  ※ 将来的により高出力の充電器導入が必要な場合には、関連法規の緩和の必要も考える

お客様行動と心理

- コンビニエンスストア滞在時間は5～10分
- 次の充電スポットまでの運転は1～2時間
- 充電残量は余力を残したい

  スマホ充電開始の電池残：[1位]20%以下で開始(35%回答)、[2位]50%以下で開始(22%回答)

出典：[調査レポート]スマホを充電するタイミング　https://jafmate.co.jp/ahamo/

ロードマップ策定への課題

①：条件緩和とインセンティブ

②：補助金スケジュール

ロードマップ策定への課題①

条件緩和やインセンティブ

1. 緑地規制

・EV充電器を導入すると、駐車場敷地内のキュービクル、引込柱、EV充電器の面積分だけ駐車場面積が減ってしまう。

緑地へ設置許可か該当面積分を緑地カウントしていただきたい

2. EV普及貢献によるCO2排出量のオフセット

・EV充電器を普及させることで、ガソリン使用によるCO2排出を削減している

・充電量に応じて充電スポット提供企業のCO2排出量のオフセットいただきたい

昼ピーク時のワンシーン

ロードマップ策定への課題②

補助金スケジュール

電気料金高騰の環境下、補助金活用しないと導入が難しい・・・。

⇒　その結果、今期設置案件は全て補助金活用だが、局所集中。

資材・人工が局所集中しない効率よいスキームを検討いただきたい

「急速充電器」7月10日に受付終了を受けて

令和4年度補正予算・令和5年度当初予算充電インフラ整備事業

「誰もが気兼ねなく利用できる公共の充電スポット」を増やすため
「急速充電器」への予備費充当を検討いただきたい